

2023年ドーハ国際園芸博覧会

第3章 実施運営業務

1. 屋内出展運營業務

EXPO 2023 Doha の開園時間は土曜日から木曜日までは午前10時から午後10時、金曜日は午後1時から午後10時であった。日本国屋内展示は、開館準備を午前9時30分から、閉館準備を午後10時から実施した。事務局スタッフの勤務シフトは早番と遅番の2交代制とした。

なおラマダン実施時期(2024年3月11日～28日)の営業時間は午後5時から午前0時であった。

混雑時の接触事故防止、展示物の盗難・破損防止のためベルトパーティションやサインの設置を行った。併せて、花き専門スタッフによる誘導や声掛けも積極的に行った。



1-1. 屋内展示入れ替え

約6か月間の会期を通じて、日本国屋内展示は各展示スタンドの展示入れ替えを行った。

出展者の入れ替え作業を現地事務局スタッフおよび現地花き専門スタッフが代行で実施することも可能としたため、おおむね花き専門スタッフによるメンテナンスおよび撤去作業となった。

* 入れ替えのスケジュールおよび出展者・展示者等は、P.49の一覧表参照

【メイン展示スタンド】

メイン展示は1週間ごとを基本に入れ替えを行った。日本からの展示花材・資材の荷受け・設営は、出展者または現地事務局スタッフおよび現地花き専門スタッフが代行で行った。入れ替え作業は開園時間中に行ったが、日本国屋内展示は閉じずに、パーティションを設置するなど来場者の安全を確保した上で展示作業を観覧できるようにした。

【多目的スタンド】

メイン展示スタンドの展示補完的役割として利用された場合は、必要に応じて現地事務局スタッフおよび花き専門スタッフが立ち会い、安全管理を行った。

【いけばな展示スタンド】

約2か月ごとに一般財団法人池坊華道会・一般財団法人草月会が、日本国屋内展示に調和した展示の入れ替えを行った。

展示に使用されている花材のメンテナンスは期間中も花き専門スタッフが適宜行った。

【フラワーアレンジメントスタンド】

井野口守政氏の監修の下、花き専門スタッフが、約1か月ごとの展示テーマに合わせ入れ替え作業、全期間中のメンテナンスを行った。

【コンテスト・輸出 PR 花き展示スタンド】

PR 花材展示に出品された花材を展示し、来場者による人気投票を実施した。

1-2. 出展団体への対応業務

出展団体の決定後、日本事務局よりデザインや展示期間・準備に関わるスケジュール、展示品情報の提出を各団体に依頼した。入場パス(ID)申請は日本事務局より行い、現地事務局スタッフがパス(ID)の受取をし、各団体へ配布を行った。

展示終了後、各団体から回収し、EXPO 2023 Doha 担当者へ返却した。荷物到着確認と荷受けは現地事務局スタッフおよび現地花き専門スタッフを中心に行った。設営時や撤去作業時に出た廃棄物は営業時間終了後、現地事務局スタッフが博覧会協会指定の廃棄物処理場にて廃棄を行った。

1-3. 花きの保管管理業務

日本から輸送された切り花(PR 花材・政府展示・出展者用花材等)は、日本国屋内出展にて荷受けし、水揚げなどの処理後に保冷コンテナにて保管・管理した。作業スペース確保のためにバイオドーム2内も作業スペースとして一部活用した。



1-4. 各種申請業務

(1) ID 申請

ID は、工事期間中、博覧会会期中、撤去期間中の3期間に分類されており、それぞれの期間のIDを取得するために EXPO 2023 Doha に申請を行った。会場には一般ゲートよりID 証を持参し、金属探知機やセキュリティチェックを通過して入場する形式となった。

【工事期間中】

期間 : ~2023年10月1日(日)



EXPO 2023 Doha に名前、会社、到着日を知らせておくことで発行される簡易的な紙製 ID を使用。

【博覧会会期中】

期間 : 2023年10月2日(月)~2024年3月28日(木)

ID 申請には、氏名・性別・生年月日・パスポート番号・パスポート有効期限・写真などの提出が必須項目とされた。



【撤去期間中】

期間:2024年3月29日(金)~

会期中に発行されたIDにシール(APR)を貼ることで許可された。



(2) 車両での搬入出

EXPO 2023 Doha に搬入日、車両情報の事前連絡を行った。

会期中は、開園時間外での搬入出となった。搬入指定時間は22時~8時であった。日本国屋内出展での受け入れ時間は上記時間に準じて車両搬入出を行った。

1-5. 案内誘導

来場者は日没後より増える傾向にあり午後8時から午後10時までに集中した。

来場者は現地の平日である日曜日から水曜日までは1日あたり300人~1,000人程度だったが金曜日・土曜日および休日の前日である木曜日は、2,000人の来場者を記録する日があった。なお、2023年11月24日(金)は4,568人を記録し入場規制を実施した。

賓客の来場者は、基本的に EXPO 2023 Doha 担当者より事前に通知されるが連絡がないことも多く、花き専門スタッフと現地事務局スタッフが対応した。



1-6. 屋内出展撤去

2024年2月下旬に撤去作業が不要との連絡がバイオドーム2の建設を実施したアシュガル社より口頭であった。ただし、日本国屋内展示の施工図面および電気図面データ提供を求められた。他国も同様の処置であったため撤去の必要がないとの認識で施工物および備品等はそのまま設置した状態にした。

撤去スケジュール

2024年3月26日(火)

現地事務局よりアシュガル社に日本国屋内展示の施工図面および電気図面データをメールにて送信した。

2024年3月26日(火)～2024年3月28日(木)

備品の整理、廃棄物搬出

2024年3月29日(金)

事務所内撤去作業

2024年4月2日(火)

日本国屋内出展区画内にてアシュガル社と現地区画立会いを実施し備品保管倉庫および事務所等のカギ等の引き渡しを行った。



1-7. 物販業務

日本国屋内出展内物販コーナーにおいて、園芸商品・花器・食器・雑貨商品・加工食品等日本産商品の展示販売を実施した。高品質・ブランド性・希少性を重視し、有名産地の商品を重点的に選択した。

商品の輸入・販売業務はカタール国で日本食品の輸入販売をしている現地日系企業の協力を得て実施した。

展示販売の実施期間は2024年1月14日(日)のジャパNDERを中心とした2024年1月1日(月)から2024年1月31日(水)の1ヶ月間に26商品82個の販売を実施したが、販売は好調であり、1商品を除いて完売となった。特に食品の売れ行きが好調であり、箱入りのギフト加工食品を中心に商品選択をしたことが好調な売り上げに繋がった。また、園芸商品・花器・食器・雑貨商品に於いても、高品質・高機能・希少性が評価され、特にタオルハンカチの売れ行きが好調であった。

期間中の販売額は55,000QARであった。EXPO 2023 Dohaでは当初物販事業に対するロイヤリティの支払いが設定されていたが、最終的にロイヤリティの支払いは発生しなかった。



2. 行催事

2-1. EXPO 2023 Doha 開幕式

2023年10月2日(月)に EXPO 2023 Doha 開幕式典が執り行われた。同式典では、シェイク・タミーム・ビン・ハマド・アル・ターニー首長殿下、ディミトリ・ケルケンツェス博覧会国際事務局(BIE)事務局長が挨拶し、首長殿下が開幕を宣言された。



開幕式

©dohaexpo2023.gov.qa



2-2. 日本国出展オープニングセレモニー

2023年10月3日(火)19時00分より、日本国出展のオープニングとして、EXPO 2023 Doha 幹部等を招きテープカット、鯉のぼりへの記念サイン、達磨の目入式などを実施し、セレモニー終了後一般公開を開始した。

開催時間【19時00分～20時00分】

- ・ 前田在カタール日本国大使館特命全権大使 挨拶
- ・ 佐藤農林水産省大臣官房生産振興審議官 挨拶
- ・ アルムーラ EXPO 2023 Doha 副事務局長 挨拶
- ・ カピタニオ AIPH 会長 挨拶
- ・ テープカットセレレモニー
- ・ 鯉のぼりへの記念サイン
- ・ 達磨の目入式
- ・ 記念撮影
- ・ いけばなパフォーマンス
- ・ 日本国屋外出展内覧



2-3. ジャパンデー

2024年1月14日(日)にジャパンデーを開催し、以下のスケジュールで実施した。

	EXPO house		Nationalday Stage	International Zone				Association office
	1F	The roof		AIPH Pavilion	Qatar Pavilion	Japan Pavilion (outdoor)	Japan Pavilion (indoor)	
10:00	VIPs Arrival present exchange							
10:20								
10:40			Official Ceremony					
11:00					tour			
11:20						tour		Business Meeting
11:40								
12:00				tour				
12:20								
12:40		Reception						
13:00								
13:20								
13:40								
14:00								

公式プログラム

(1) 歓迎セレモニー

10時00分よりエキスポハウスにて歓迎セレモニーが行われた。セレモニーでは、EXPO 2023 Doha からアルダファ政府代表とアルクーリ事務局長が出席され、高橋農林水産大臣政務官から日本国とカタール国の国旗が印字された特製のリングと飾り扇子が贈呈された。



(2) 公式式典

10時30分よりナショナルデーステージにて公式式典が開催された。式典のプログラムは一般来場者には情報公開がされておらず、関係者のみでの開催となった。セレモニーの進行は日本語、英語、アラビア語の3ヶ国語の同時通訳にて行った。

高橋農林水産大臣政務官からは、冒頭で能登半島地震に対するカタール政府含む国際社会からいただいた連帯に対し謝意を示した後、EXPO 2023 Doha 関係者への謝辞、EXPO 2023 Doha が持続可能でよりよい未来を拓くためのよい機会となることへの期待を述べるとともに、日本国展示の紹介、2027年国際園芸博覧会への参加を促した。

- ・ 開会挨拶
- ・ カタール国国歌斉唱・国旗掲揚
- ・ 日本国国歌斉唱・国旗掲揚
- ・ 高橋農林水産大臣政務官 挨拶
- ・ 前田在カタール日本国大使館特命全権大使 挨拶
- ・ 記念撮影
- ・ 閉会挨拶



(3) EXPO ツアー

視察参加者は連結したカートで、カタールパビリオン、日本国屋外出展、日本国屋内出展、AIPH パビリオンの順に移動。各パビリオンでは担当者による説明が行われた。



(4) ジャパンデー記念レセプション

12時10分よりエキスポハウスにおいて、EXPO 2023 Doha 関係者、海外出展各国を招きジャパンデー記念レセプションを行った。レセプションでは EXPO 2023 Doha からの提供料理と、JUNKO Sushi & Japanese Dining による日本料理を提供した。

記念レセプションでは、河村2027年国際園芸博覧会協会事務総長より2027年国際園芸博覧会のプレゼンテーションが行われた。

記念レセプションの文化プログラムとして、一般社団法人花いけジャパンプロジェクトによる花いけパフォーマンスを披露した。パフォーマンスは、曾我大穂氏の特別演奏で始まり、華道家やフローリスト(日向雄一郎、曾我部翔、宮永英之、平間磨理夫の各氏)が演奏に合わせて、日本の春を花で表現するパフォーマンスを披露し、来場者を魅了した。



2-4. 日本国出展クロージングセレモニー

2024年3月27日(水)19時00分より、日本国出展のクロージングとして国際園芸協会(AIPH)関係者等を招き、クロージングセレモニーを行った。セレモニーでは、達磨の目入式も実施した。

開催時間【19時00分～19時30分】

- ・ 前田在カタール日本国大使館特命全権大使 挨拶
- ・ 長峰農林水産省園芸作物課長 挨拶
- ・ カピタニオ AIPH 会長 挨拶
- ・ 達磨の目入式・撮影

前田在カタール日本国大使館特命全権大使
カピタニオ AIPH 会長

- ・ 記念撮影



2-5. AIPH コンテスト表彰式

2024年3月27日(水)に AIPH コンテスト表彰式が執り行われた。表彰式では前田在カタール日本国大使館特命全権大使、長峰農林水産省園芸作物課長らが招待されて出席した。



2-6. EXPO 2023 Doha 閉幕式

2024年3月28日(木)に EXPO 2023 Doha 閉幕式が執り行われた。閉幕式ではカピタニオ AIPH 会長から2027年国際園芸博覧会協会佐藤事務次長への AIPH 開催旗が引渡され、ケルケンツェス BIE 事務局長から前田在カタール日本国大使館特命全権大使へ BIE 開催旗が引渡された。



3. ビジネス意見交換会

3-1. ビジネス意見交換会の概要

月日 :2024年1月14日(日)

時間 :11時10分 ~12時00分

場所 : 協会本部棟 BIE 控室

日本とカタールの花き業界関係者が意見交換を行った。

【意見交換会テーマ】

日本の花き輸出ビジネス等の需要および課題について

【日本側メンバー】

一般社団法人日本花き卸売市場協会	会長
	福永 哲也
一般社団法人日本花き卸売市場協会	常務理事
	大西 常裕
一般社団法人日本花き卸売市場協会	監事
	森川 長栄

【カタール側メンバー】

Al Maktab Al Qatari Al Hollandi W.L.L

統括マネージャー

Edo Swart

切花部署 部長

Palasubramaniam Kenges waran



3-2. 意見交換会要旨

出席者の自己紹介が行われた後、日本・カタールの花き園芸業界が直面する諸課題について活発な議論が交わされた。

【まとめ】

はじめに、参加者各々の自己紹介と共に参加者の販売実績などを共有し、一般社団法人日本花き卸売市場協会福永会長が進行役となり、中東地域における日本産花きのビジネスの可能性につい

てとして意見交換会のテーマである「日本の花き輸出ビジネス等の需要及び課題について」両国の意見交換会を実施した。

日本産花きについて

〔日本側より以下の発言があった。〕

日本産の花きは、他国でもあまり取り扱いがなくユニークで、色がやさしく、形も柔らかいものが多い。栽培に手をかけられているものも多く、大量生産ではなく少量を丁寧に生産しているが、それ故、生産コストが高くなり商品コストも高くなってしまふ。

上記のことから、主なターゲットはハイエンドなポジションのフラワーデザイナーが多いが、輸出を考えるとターゲットを見つけることが容易ではない。

〔ドーハ側より以下の発言があった。〕

カタール市場において高級ホテルやモール、ウェディングなどのハイエンドをターゲットとしてビジネスを展開している。そのため、日本の切花は質が良く、仕入れたいという人は多く存在する。

ランタンキュラス、スイートピーなどの日本産花きを取り扱うケースもある。

両国に共通する課題について

〔日本側より以下の発言があった。〕

日本・カタール両方で花の単価だけではなく販売にかかる輸送費なども課題である。そのため、日本ではなるべくコストを抑えるために市場に一度花を集荷してから全国に展開している。

日本産花きの展開方法について

〔カタール側より以下の発言があった。〕

日本の花の品質が良いことは間違いがないが、その良さを説明できる人が販売する店舗に存在し、一般消費者に伝えられないと購入するに至らない。海外店舗でも、花き輸出元に説明できる人がいれば、より需要は拡大していくのではないと思う。海外で花き栽培しようとする日本人をあまり聞かない。他のアジア諸国(例えば、韓国やベトナム)は、海外に生産拠点を確保し販売する業者も増えている。

〔日本側より以下の発言があった。〕

日本の切花の良さを知ってもらうのであれば、日本の花きを使った展示を店舗等展開するなどのイベントを実施するのはどうかとの質問があった。

2010年ぐらいにオランダを視察した時に日本花きが高単価であることをよく指摘された。今回カタールで意見交換が実現しカタールのマーケット事情について理解できた。

なお、帰国後にカタール側より日本側に対して花きの発注があった。

4. 国際園芸博覧会を通じた人材育成に向けた現地スタッフとの意見交換会

4-1. 国際園芸博覧会を通じた人材育成に向けた現地スタッフとの意見交換会の概要

月日：2024年1月14日(日)

時間：14時30分～15時30分

場所：協会本部棟 BIE 控室

【テーマ】

「国際園芸博覧会を通じた人材育成の在り方について」
(EXPO 2023 Doha での経験を踏まえて)

【参加メンバー】

農林水産省農産局園芸作物課花き産業・施設園芸振興室長
小宮 英稔

日本大学 生物資源科学部 生命農学科
花の科学研究室 教授 窪田 聡

全国花みどり協会(一般社団法人 JFTD) 会長
澤田 将信

花き専門スタッフ

(リーダー)上田 信二

橘 貴史

佐藤 由希

原田 もも

恒松 皇樹



4-2. 意見交換会趣旨

専門スタッフは、国際園芸博覧会という貴重な機会を活用し、花きの育種、生産、流通、販売、文化等の各分野からの人材が、日本国政府屋内出展の業務を通じ、将来の花き業界を担う人材の育成と交流に資することを目的としている。

さらに2027年国際園芸博覧会は花き業界の多くの人材が経験を積む絶好の機会であり、2027年国際園芸博覧会における人材育成の検討に資するため、専門スタッフとの意見交換を実施した。

【まとめ】

各専門スタッフより EXPO 2023 Doha での経験及び研修上の課題、改善点などの発表が行われた。

現地において言語の違いによる来場者とのコミュニケーション問題や展示内容についての事前情報の共有が少ないため展示物(花材や農業技術)についての詳細説明や価格等の案内ができない。また農業展示や PR 花材については直接問合せするという事になっているが問合せ先の HP が日本語版しかない場合など来場者自身での問合せも難しいことがあるとの意見があがった。

博覧会全体としては他国の生花の展示が少ないので他国の展示で花や装飾方法などを学ぶ機会がなかったとの意見があがった。

EXPO 2023 Doha での経験を帰国後に活用するには、現地で学んだ知識や情報、感じたことを日本のデザイナーなどに伝えたいとの意見があった。

2027年国際園芸博覧会では、来場者とのコミュニケーション問題や展示内容をアプリや QR コードなどを使用して各国の母国語での説明を見られるようになるという意見があった。

運営委員からは、さまざまな意見に対して花き専門スタッフが全部対応するというのは難しいという貴重な意見をいただいたとともに、各人の経験はとても貴重なため、今後の人生の糧になるので是非それを生かしてほしいとの講評をいただいた。